VI 補足編

前章までに「住宅の基本はこうあるべき」をいわば教科書的に述べてきました．“教科書”といってもかなり筆者の主感が多いことは否めません．さらに検討を加えていく上で，教科書的部分には馴染まない「極論」的視点も浮び上ってきました．これは前章までの本論からはずれることはなく，本論を側面からサポートする，ある意味においては本音論でもあります．

1 いかに行儀悪く暮すか―1

行儀悪く暮す，だらしなく暮らす，これは家庭内のひとつの生活スタイルです．行儀悪く，だらしなく，と表現しても，不潔，非衛生ということとは異なります．家の中を裸で歩きまわったり，ステテコ，パジャマのままフラフラしたりすることは一般には行儀のいいことではありません．このことは家事において，だらしなくしておくことについてもあてはまります．

ダイニングキッチンでの食事はどうしても作業場で食事という雰囲気があります．それを少しでも緩和するために，主婦は洗し台まわり，ガス台まわりなどは常に清掃，整理しておくことに気を遣わなければなりません．鍋・釜が使ったままになっていたり，調理に使った道具が雑にカウンター上に放置されていたりでは「雰囲気」を語る以前の問題となってしまいます．

主婦も，調理，盛り付けができたならば家族と共に，料理が冷めないうちに食べたいのです．しかし後片付けをしてからでないと気分が悪いということになると，冷めてしまいますし，その間，家族もおあずけをくわされることになります．問題は食後にも及びます．通常，使用後の食器類はすぐに流し台に下げられて，洗い，水を切り，食器棚へと戻されます．しかし，場合によっては，流し台の水槽に水を張り，その中に食器類をつけておき，洗いは後まわしにすることもあるのです．汚れた食器が流し台に山積みになっている光景は何とも見たくないものでしょう．

主婦としては，たまにはサボって，だらしなくしたまま，のんびりとしたいこともあるでしょう

し，ちらかっていることはわかっていても，別の用件を先に片付けなければならないこともあります．

厨房と食堂が別室であれば全く問題はないのですが，日常の配膳，後片付けの動線が長く，労働量の増加につながります．またコミュニティーハウスの原則からすると，厨房の主婦と，食堂の家族とが全く分断してしまうことは好ましくありません．そんなときに，設計例中，多く用いている対面式カウンター付キッチンは，ボロ隠しによいのです．

ＬＤＫタイプ，即ち，厨房と食堂，居間がまったくのワンルームとなっている構成では食堂からだけでなく，居間からもキッチン作業台が見えてしまいます．どんなに高価な美しいシステムキッチンを自慢したくとも，100％清潔，整理をしておく自信がなければ，直接見える場所は避けた方が無難でしょう．

2　いかに行儀悪く暮らすか―2

夏の風呂上りに，衣服をきちんと身につけて家の中で生活する人はどれ程いますか？

オヤジは裸の上にステテコ一枚，オフクロと娘は裸の上にムーム――一枚，息子は単パン一枚で家の中を歩きまわり，居間でダベるのがいい暮らし方ではありませんか．

自分の家の中なのですから，勝手気ままにやりたいものです．

そうするためには設計上のひと工夫がどうしても必要です．

いかに行儀悪くといってもそれは公の場まで広げることはできないのと同様に，家の中にも公共性の高い場所と全くの私的な場所とがあります．これらをまぜると勝手気ままにはいかなくなります．

最も私的な場所はトイレ．ここはまず１人で使います．カギもかかります．次に風呂．ここは１人でということなしに親子や兄弟，夫婦でもいっしょに入ります．次いで私室です．風呂と私室の差は，年ごろの娘が入浴中にオヤジはドアをノックしても中に入ることはできませんが，私室はノックすれば入れる場合もあることに違いがあります．

最も公共性の高い場所は玄関です．ここには誰でも来ます．近所の人，外交員，勝手口がはっきりしないと御用聞きなどもどんどん来ます．

公と私を混ぜるとはこうです．

玄関ホールからトイレや浴室に出入りすること．

あなたがトイレを使っている．そこへ近所のダンナがやって来て，亭主と話し始めてしまいました．あなたは近所のダンナが帰るまでトイレにいますか？　それとも勢いよくジャーッと流して，「あらいらっしゃい」と出ますか？　同様に風呂上りに，服を全部着て，洗い髪にタオルを巻いて「アラ，いらっしゃい！」近所のダンナならまだいいですが，土地のエライさんだとすると，恐らく帰るまでじっとしていることになりはしないで

しょうか．

トイレの出入りは玄関ホールからは陰になるところに設ける．水を流す音は聞こえない設計とする．これが基本です．

浴室更衣室から私室へは玄関ホールを通らなくても行けるようにします．1階に浴室，2階に私室は普通に行なわれることですが，この場合でも階段を玄関ホールにデン！と据え，その周辺を吹抜けにし，ホールを立派にダイナミックにしようとすることはよく使う手段です．でもこれはお偉いさんが帰るまでガマンです．

私室が2階であれば，浴室も2階にすれば問題はありません．1階浴室に外の見える大きな窓をつけたならば，隣の2階からのぞかれそうですが，2階なら，ほんの少し目隠をつければ，大きな窓がつけられることが多いのです．

客は玄関ばかりでなく居間にいることもあれば，客自体がトイレにいることもあります．客の種類も考えねばなりません．親戚や，気のおけない友人か，あるいは町会の役員，会社の上司といった種類が多いのかは家の設計に大いに係わってきます．

大邸宅を設計しようとしているのではないですから，敵が家の中にいるときはある程度のガマンはしかたがありません．それにしても，エスケープルート，即ち敵といちいち顔を合わさなくとも移動できる裏道が用意されていると重宝であることはいうまでもありません．勝手口から台所やユーティリティを通って自分の部屋に行けるなどです．

外敵と家族間では一般的に以上のようなことがいえますが，家族同士でも考えねばならない場合があります．夫婦とその他の家族です．2世帯になると話はややこしいので，それは後の問題とします．夫婦の事後のことです．そのまま平気で眠る人達もいますし，サッとシャワーをあびてさっぱりしてから眠る人達もいるのです．サッパリしたいのだけれども，できないでガマンの人もいるようです．後者が問題です．寝室から浴室に行くのにわざわざパジャマを着るのでしょうか？　夜中のこととはいえ息子達も中学生ともなれば12時頃まで起きています．子供達にしても夫婦がそういうことをすることは知っています．が，親としては明ら様にできないでしょう？

浴室は夫婦の寝室のすぐそばに造るのがいちばんです．

次にトイレが2カ所あればいいのですが，1カ所しか設けられないときのことです．スペースの節約からホテルのバスルームのように浴室更衣室に洗面化粧台も便器もいっしょの部屋にすることがあります．これはいただけません．フロに入っている時間は30分もあるのです．その間に用を足したいこともあるでしょう．小ならすぐ済むが，大や，生理のときはかなり困ります．結局ガマンしかないのでしょう．いくらスペースの節約といってもちょっとした工夫です．小ならすぐ済むといっても，年ごろの娘はやっぱり別扱いです．娘が浴室に入っているその横の便器で，オヤジが小便をしてはいけないのです．入浴中は更衣室へも入室禁止です．

さすがに今はあまり見られませんが，1家に1カ所しかないにもかかわらず，バスタブ，洗面台，便器が全てワンルームというものもありました．これは単身者用専用であって家族用とはいえません．

いかに行儀悪く暮らすかという問題は個人個人の，または家族と他人とのプライバシーをどのようにコントロールしていくか，どう処理していくかという設計問題です．建築家は医者であり弁護士でもあるわけで，個人のセックスの仕方にも口を出し，家族の財産問題にも口をはさむもののようです．

3 勉強室を造る

「勉強室」はオヤジ専用の書斎でもなく，子供の個室のことでもありません．

家族の誰もが，勉強するときはその部屋に入って勉強する空間のことです．公共図書館の自習室のようなものを家の中に造るのです．

文筆を商売としていれば専用の書斎がいるでしょうが，大部分の亭主たちが「男の城」として夢を見る「書斎」で何をしようとしているのでしょうか？　たいした本も読まないでしょうし，レポートを作るとしてもほんのたまにのことでしょう．

さて勉強するのはオヤジだけではありません．息子も娘も，オフクロさんも勉強するのです．

図書館と学習のコラム欄でも書いたことですが，一人で勉強をすることは，真に深い思索には必要でしょうが，普通の学習では必要性は薄いと思います．逆に一人でいると，マイペースで適当になまけながら，気を散らして学習することになるのではないでしょうか．ある者はラジオを聞きながら，ある者は息抜きのつもりでマンガの本を読み，ある者はついウトウトしてしまうのでありましょう．

集まって学習するのです．ただし，教科書の音読練習，楽器の練習，動きまわらなければできない工作などは，時を選んでするか，もしくは居間などで堂々とすればよいのです．他の人が鉛筆を紙にすべらせる音，ページをめくる音は，学習効果，やる気にはよい影響を与えるものです．

集まって学習することには他のメリットもあります．各自の教科書やノートは別として，大型の辞書や百科事典，図鑑などをひとつの部屋の中のコーナーにまとめて置いておくことができます．これらの大型図書は通常の家庭内には1部，あるいは1セットのみ購入されて，最も利用度が高いであろうと予想される人のいる部屋の本棚に入ることになります．オヤジが権威のある家庭ではオヤジの書斎，そうでなければ長男の部屋などが一般的です．すると他に利用したい人は，置かれている部屋の住人にあいさつをして借りに行かなければなりません．多くの場合，よほど必要でない限り面倒でやめてしまいます．専門的な図書でなく，一般の小説の類では各自がバラバラに購入し，気がついてみたらば一家に2冊あったという例もかなりあると思われます．

勉強室に大きな書棚を用意して，誰でもが目を通せるようにしておきたいものです．

勉強室内ではオヤジの机と椅子はひとまわり大きくて，リッチなものにしておくのがよいでしょう．

子供室から学習の機能が消えて，眠ることと着換えることの2つに使用機能が単純化してきます．子供室はもっと狭くてよいのです．

居間に家族みんなが集まって，ダベったりテレビゲームをしたあとは，学習室に集まってみんなでそろって学習をする．何らかの型で，いつも家族がそばにいることを感じている，それがコミュニティハウスです．

4 子供に個室は必要か

本書に述べているような，いわゆる家族間コミュニケーションを重視した住宅設計をした場合，一応個室は必要であるといえます．

家族が自然に顔を合わせ，自然にあいさつのできる構成であり，ゆったりとした居間を持ち，個室内にとじこもらずに勉強室で学習をする．そんなコミュニケーションハウスには，ベッドが置けて，洋服を入れておくタンス類を必要数置き，そして着換えの動作がそれなりにできる，寝る為と着換える為だけの小さな空間を子供寝室として設けたいものです．子供室内で勉強するといっても，実際は何をしているのかわからない場合が多いのです．

コミュニケーションハウスの構成がとれないのならば，子供室は設けない．一般の教科書によると，最低でも男の子と女の子の部屋は小学校高学年になったら分けるべきだとされています．その根拠は何でしょうか？

男女の兄妹が同室であっても「着換えるから外に出ていて！」でよいのではないでしょうか．部屋の中で下着もつけずに全裸でいることはありえませんし，女子の生理の処理はまず100％トイレ内です．男子の夢精の場合の下着交換も，そういうものであるとの親の指導にかかっているわけです．男女の兄妹または姉弟が同じ部屋で学習し，フトンを並べて眠ってどこに問題があるのでしょうか．適当な自然の性教育の場面に恵まれているのであり，協調性の育性にもなかなか得難い好条件を授かっているとは考えられないものでしょうか．

同性の兄弟・姉妹の場合は一般に異性間よりも問題は少ないといえます．その上に，ライバル意識的な適当な刺激や，上の子から下の子への親ではできないアドバイスがあるなど，また上の子は下の子がいるからこそ，〝上〟であることの自覚が確立されるなどのメリットが多いものです．別室でひとりでいる時間が長ければこれらの数々のメリットは生じてきません．

現在，一般的に子供室とか個室とかいわれている部屋は，本来の意味の独立した個室とはいい難いのです．自室内を一応でも自分で清掃すればいい方で，多くの場合掃除機がけは母親の仕事です．子供の方もそれが当然のように思っている場合もあります．しかし部屋内に子供がいるときに，入ろうとする親はドアをノックするのです．子供が学校に行っている間に，親は何となく気になって，秘密の日記やエロ本を捜してみたりするもののようです．これは親の過保護と子供を信頼していないことの表れで，おっかなびっくり個室を与えている証拠でもありましょう．

現在，中学生，高校生などを持つ親の多くは，自分達が中学・高校のいわゆる精神的成長期に個室を与えられていなかったのではないでしょうか．自分に経験のないことを子供が経験している．親は，体験からくる指導ができないのではないでしょうか．それにもかかわらず「時代の流れだから」と細いスネなのに無理して個室を与えています．今，成長期の子供達がおとなになって，そしてその子供に個室を与えるときにはとてもスムーズな個室づくり，個室運営ができてくるのでないでしょうか．

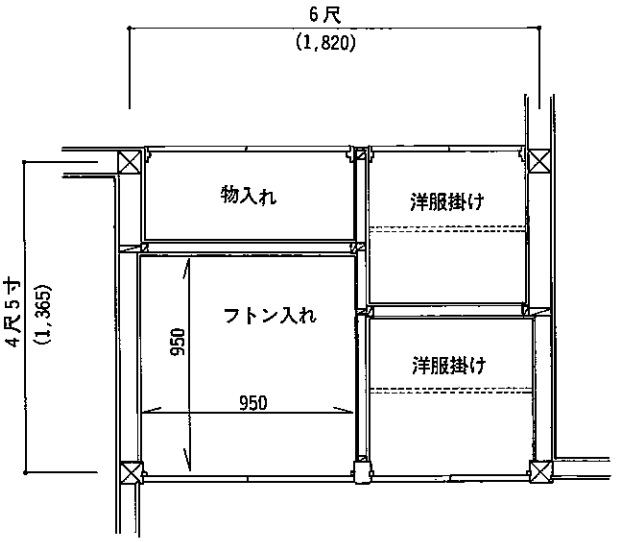
過渡期の家造りとして，コミュニケーションハウス内の，寝るためだけの個室を提唱するものです．

5 押入れとはフトン入れである

押入れとは，ありとあらゆる物品を収納しておく場所ではありません．押入れとは敷蒲団，掛蒲団をたたんで収納しておく場所を指すものと考えられます．その他の雑多な物品を収納する場所の適当な名称がありませんが仮に物入れと呼ぶものとしましょう．

木造建築物を普通に構成していくと，3尺，6尺といった柱の心々間の寸法が暗黙のうちに使用されます．押入れは奥行き830mm，幅は1740mm程となります．ダブルサイズの寝具は別として，通常サイズにもいろいろの規格がありますが．その中で小型のものを例にとると，敷蒲団で幅900mm長さ1950mmです．幅方向で2枚並べて入れると1800mm必要なわけですが押入れは1740mmしかないので両端がまるまります．二つ折りにすると奥行きで950mmあり，やはりまるめなければ押入れに入りません．三つ折りにすると650mmとなり，押入れに積みかさね，上に枕をのせておき，後ろにできた20cmのすきまに落ちたりすると，台をもって来てフトンの後ろに手をのばすか，いったんフトンを出さないと取れなくなってしまいます．いずれにしても3尺・6尺の寸法体系は蒲団のサイズには合わないようです．

物入れとしても奥行き3尺は深すぎます．A.さん宅での問題点としても指摘しましたが，いったん収納した物品が，どこに入ってしまったかが不明となります．押入れ，物入れ，洋服掛けなどを組み合わせていき，収納物にちょうどよい寸法の入れ場所を造ることです．押入れは蒲団の量（増加予測を含めて）以上に設けないのがよいでしょう．適当な深さの物入れが多いことはそれなりに重宝ですが，押入れが多くとも物を投げ入れておくだけの場所となり，無駄であることが多いようです．また家族の寝方のほとんどがベッドであるとすると，各室付きの押入れは不要となります．季節の寝具の交換ができればよいので，蒲団部屋を設け家の中の一カ所に集中しておいた方が維持管理の手間が省けます．



6　面積配分を考える

✕の例と設計9例について，延べ面積とその内訳を，建築設計資料集成（丸善）において行なっているのと同一の方法で比較してみましょう．内訳の項目は

公室　：　居間・食堂・茶の間・台所
私室　：　寝室・子供室・老人室
設備　：　洗面所・浴室・便所・洗濯室
通路　：　玄関・廊下・階段
収納　：　納戸・押入
その他：趣味室・茶室・音楽室

の6項目です．本書ではいわゆる2世帯住宅や仕事場のある併用住宅は扱っていません．

この項目分類の場合，台所は公室か設備かが問題となるでしょう．台所が独立室の場合は設備でしょう．このあたりは建築学会の内部で議論の末，この扱いとなっているのでしょう．ダイニングキッチンの場合はどうしても公室と設備とには分けにくいものがあります．設計例9例には，家事空間としてひとまとめになった台所・洗濯室・家事一般のコーナー・収納部があります．この場合は，収納部はそこだけ切り離して「収納」に，そのほかは台所として使うと思われる部分と「設備的」に使うと思われる部分とを，その機能の重みの中間位置で線引き区分けを行ないました．多少主観的にならざるを得ませんが1㎡と違わないでしょう．

全体として

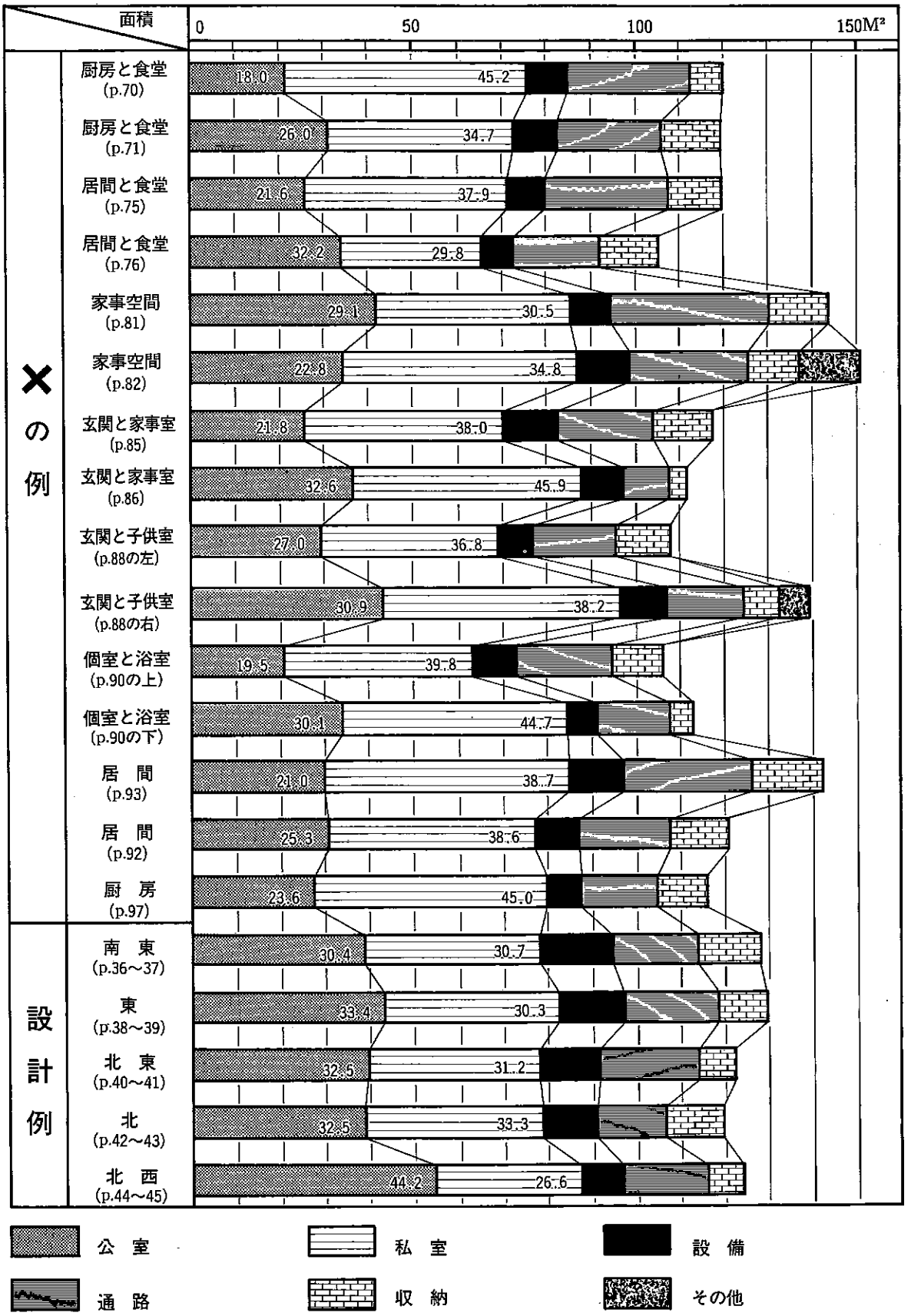
✕の例

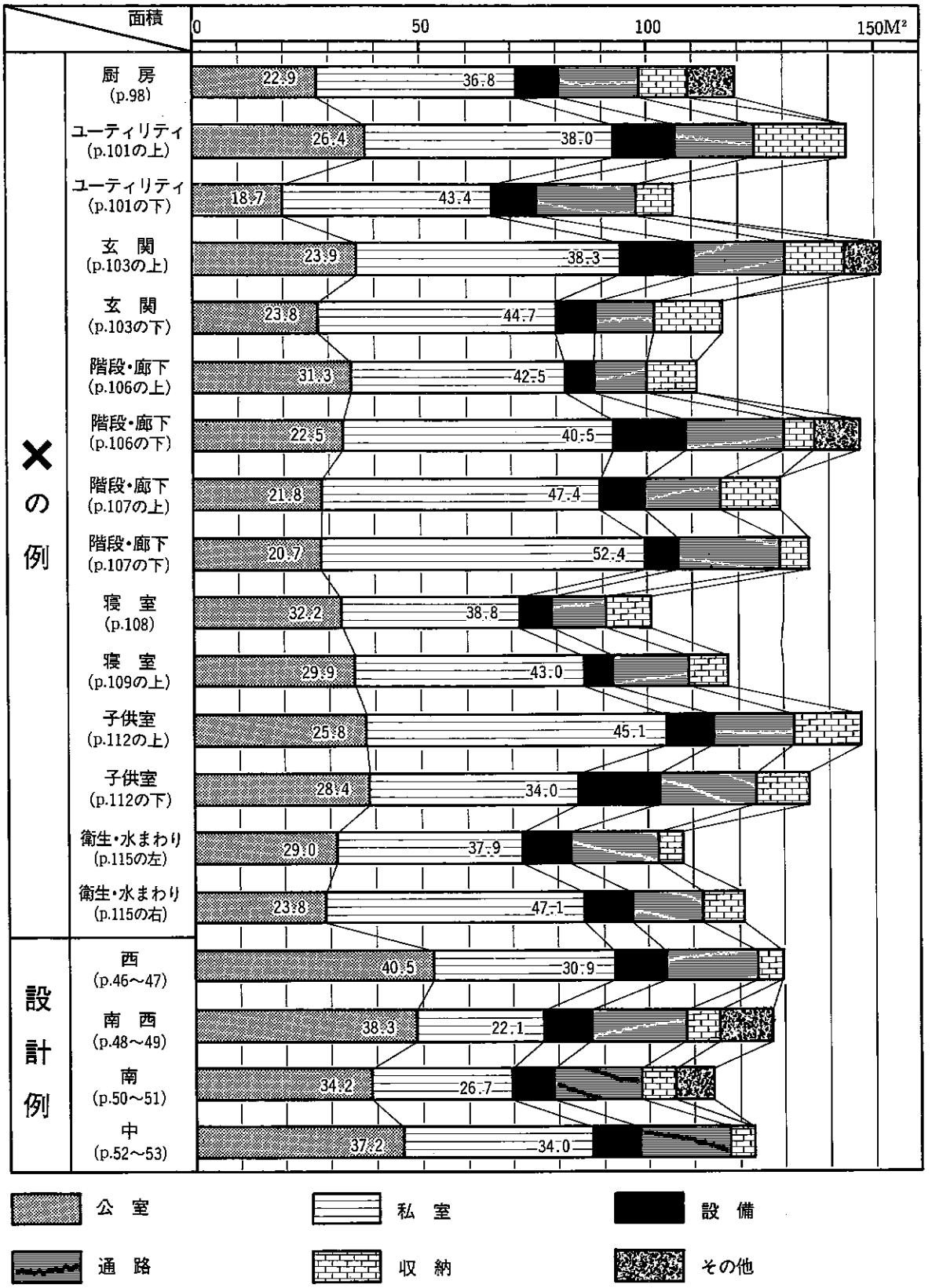
細かな部屋を多数設け，公室は8畳の居間に6畳の食堂，分離した台所，全体構成を考えていない階段位置，必要最小の便所と風呂，物入れとは押入れであるような，現在の住宅事情を代表する，何となく，住むには一応住める，という普通の家です．

設計例

私室は家具配置を当初より盛り込んだ必要最小限を基本に，できるだけの面積を公室のゆとりにまわし，家事空間をまとめ，家族の使う風呂には余裕をもたせてあります．小住宅である以上，面積に限度があります．以上を念頭に，家族が自然に顔を合わせ，自然光を十分に取り込み，通風のよい，家族と共に暮らす家をめざしています．

グラフは，その長さが各項目の面積と延べ面積を表わします．グラフ内の数値は，各項目面積の延べ面積に占める割合をパーセントで表わしています．


面積
0
50
100
150M²
×の例
厨房と食堂 (p.70)
18.0
45.2
厨房と食堂 (p.71)
26.0
34.7
居間と食堂 (p.75)
21.6
37.9
居間と食堂 (p.76)
32.2
29.8
家事空間 (p.81)
29.1
30.5
家事空間 (p.82)
22.8
34.8
玄関と家事室 (p.85)
21.8
38.0
玄関と家事室 (p.86)
32.6
45.9
玄関と子供室 (p.88の左)
27.0
36.8
玄関と子供室 (p.88の右)
30.9
38.2
個室と浴室 (p.90の上)
19.5
39.8
個室と浴室 (p.90の下)
30.1
44.7
居 間 (p.93)
21.0
38.7
居 間 (p.92)
25.3
38.6
厨 房 (p.97)
23.6
45.0
設計例
南 東 (p.36〜37)
30.4
30.7
東 (p.38〜39)
33.4
30.3
北 東 (p.40〜41)
32.5
31.2
北 (p.42〜43)
32.5
33.3
北 西 (p.44〜45)
44.2
26.6
公 室
私 室
設 備
通 路
収 納
その他


面積
0
50
100
150M²
×の例
厨房 (p.98)
22.9
36.8
ユーティリティ (p.101の上)
26.4
38.0
ユーティリティ (p.101の下)
18.7
43.4
玄関 (p.103の上)
23.9
38.3
玄関 (p.103の下)
23.8
44.7
階段・廊下 (p.106の上)
31.3
42.5
階段・廊下 (p.106の下)
22.5
40.5
階段・廊下 (p.107の上)
21.8
47.4
階段・廊下 (p.107の下)
20.7
52.4
寝室 (p.108)
32.2
38.8
寝室 (p.109の上)
29.9
43.0
子供室 (p.112の上)
25.8
45.1
子供室 (p.112の下)
28.4
34.0
衛生・水まわり (p.115の左)
29.0
37.9
衛生・水まわり (p.115の右)
23.8
47.1
設計例
西 (p.46〜47)
40.5
30.9
南西 (p.48〜49)
38.3
22.1
南 (p.50〜51)
34.2
26.7
中 (p.52〜53)
37.2
34.0
公室
私室
設備
通路
収納
その他

公室

✕の例

最低18.0%，最高32.2%であり，平均は25.4%です．

「居間」は上等の応接室であり，日常，家族の使用する部屋ではないと考えているらしく，独立性の高い部屋となっている例が多くあります．上等のソファセットが置かれ，高級インテリアが所狭しと配置されています．8畳大程の博物館的高級室であり，子供などは遊ばせません．そういう空間があることが，家を持ったことのあかしなのでしょう．

家族のための家とは，居間（応接間）を自慢するためのものではなく，自由に飛びまわり，笑い声のする家族室のある家のことをいうのです．

設計例

9例では最低30.4%，最高44.2%であり，平均は35.9%です．

平均で✕の例との10.5%の差は，延べ面積120㎡として12.6㎡となり，これは8畳間ひとつとほぼ同一面積です．

設計例では，家族のコミュニケーションの場である居間・食堂などが，決っして特殊例ではない✕の例などの一般的住宅よりも，平均で8畳一間分広いのです．部屋数が多いのではありません．部屋そのものが広いのです．

ゆったりと，のびのびしているのと同時に，いろいろの可能性のある広さがあるといえるのではないでしょうか．

私室

✕の例

最低で29.8%，最高で52.4%であり，平均して40.3%です．

これでは一軒の家は個人用の個室の集合体であるだけで，家族のための家とはいいがたいのです．一人一人が便宜上一応家族のように集まって，ひとつ屋根の下で暮らしてはいるものの，実は一人一人が勝手気ままに個室に閉じ込もって生活している家を造ってしまったのです．

子供室は必要以上に広い．

使用目的のはっきりしない予備室としての和室，来客の泊まる部屋など，ほとんど使用しないような空間が多数用意されています．

設計例

最低22.1%，最高34.0%であり，平均して29.5%です．

しかし少ないからといって，子供複数が同室であるとか，夫婦室が客間を兼ねるなどはしておらず，逆に夫婦室ではかなりのゆとりのスペースをもつものもあります．

ゆとりと無駄は異質のものです．子供室の一室を何となく6畳間とするというようなことなく，どの広さが何のために必要かを考慮して決めてあります．そして不要と判断された面積は，居間などの家族室のゆとりへとまわされています．

設備

✕ の例

面積の限られたスペースであるので，パーセントでの比較は差異が明確ではありません．

実面積で比較することとします．

1，2階に3尺×4.5尺のトイレを1カ所ずつと，6尺×4.5尺の洗面脱衣室，6尺×4.5尺の浴室を設けるとこの面積合計が7.45m²となります．この洗面脱衣室を洗濯室兼用とすると多少狭く，また，この浴室はやはり多少狭いものです．

最低が6.21m²でトイレは1カ所です．6m²代が3例，7m²代が5例です．中の1例のみ18.2m²とまとまった家事室をもつものとあり，平均して10.14m²となっています．

設計例

最低が9.0m²で最高が16.72m²です．9例平均で11.95m²となっています．

トイレは各階1カ所ずつで，浴室は6尺×6尺を基本にそれぞれの条件に応じて調整しています．ほとんどの例で専用の家事空間をもっています．洗濯をし，ミシン掛けをし，アイロンを掛け，小さな記帳をするカウンターを備えているものです．専用家事室をもたず，脱衣室の一部を洗濯室とする場合も，作業カウンターをしつらえ，単に洗濯機が置けるだけの空間から「家事のための空間」となるよう設計しています．

平均値の差の1.81m²はこのような所にあらわれています．

通路

✕ の例

最小9.3%，最大24.8%です．最小のものは玄関ホールを中心として，居間食事室を通路としても使用するもので設計の方法によっては合理的といえます．残念ながらこの例では居間の中央部を横切ることになっています．最大のものは，2階の図面を特につけてはいませんが，子供の遊び場や，夫婦のくつろぎの場として利用されるという階段に続く広いホールが設けられています．この目的は恐らく達せられることはないのではないでしょうか．何となくできてしまったホールでしょう．

面積としては特に表わせませんが全体として中廊下式のものが多いのです．

設計例

ほぼ一定の値をとり，最小12.9%，最大18.5%です．数字として18%は大きい値ともいえます．できれば最小値の12%程度としたいものです．大きくなっているのは，中廊下を避け片方が庭に開放している廊下としたり，玄関を自然光の十分差し込む開放的な明るい設計としているためです．

設計チェックリスト

I コミュニケーション・動線

- □ 厨房と食堂の連絡・コミュニケーションはよいか
- □ 食堂と居間の連絡・コミュニケーションはよいか
- □ 居間から厨房内および家事スペースが見通せないか
- □ 家事が分散していないか（炊事・洗濯・裁縫・その他）
- □ 脱衣室・洗濯場・物干し場の洗濯物の流れはスムーズか
- □ 家事室（厨房を含む）から玄関の様子がわかるか
- □ 玄関と子供室が直通でないか
- □ 浴室，便所の出入りが他人の目を気にせずにできるか
- □ 寝室と浴室は近いか，ホールを通過することはないか

II 各室共通事項

- □ 兼用する部屋を決めたか
- □ 家具の数・大きさをリストアップしたか
- □ 家具が窓やフスマにかからないか
- □ 家具のうしろにコンセントやスイッチがこないか
- □ 出入口の位置を変えると家具がもっと置きやすくならないか
- □ 開いたドアのうしろにスイッチがこないか
- □ 物品専用の収納スペースがあるか
- □ 電話機の将来設置予定をみこんだか（インターホンを含む）
- □ テレビアンテナ端子は設けたか
- □ 設備機器の特性と部屋の機能は合っているか
- □ 消し遅れスイッチ採用の検討はよいか

III 居間

- □ 応接室になってしまっていないか
- □ まとまったゆとりの空間はできているか
- □ 置く予定の家具をすべて置いてもまだ余裕があるか
- □ ソファセットにこだわっていないか
- □ 居間の窓から何が見えるか
- □ 採光は十分か
- □ 主照明の他に補助ムード照明を考慮したか（調光可能か）

□ 熱交換型換気扇を検討したか

Ⅳ 厨房

□ 作業の流れはスムーズか
□ 物の収納位置は適当か，出し入れはスムーズか
□ 吊戸棚は高過ぎないか，高所の吊戸棚に収納の多くを期待していないか
□ 食器・道具の量と大きさはチェックしたか
□ 置く器具（炊飯器・ジューサーなど）を並べて作業ができるか
□ 専用コンセントは十分か，アースはつけたか
□ 給気口を設けたか
□ 冷気が足を直撃しないか（給気ガラリの位置）
□ 給湯はよいか，水栓の形式は決めたか
□ 内装は水や火に対して強いものか，油汚れをおとせるか
□ 手元用の照明はついているか
□ 食堂にガスカランは必要か
□ 食堂に換気扇は必要か

Ⅴ ユーティリティ

□ 予定している作業に対して広さは十分か
□ 収納予定物品の大きさと量はチェックしたか
□ 大きなもの，小さなものの収納場所はそれぞれに用意されているか
□ 雑洗い流しは設けたか
□ 給湯はよいか
□ 乾燥機排気用の穴はあいているか
□ 内装は水に強いか
□ 勝手口に下足置場はあるか
□ 手元用の照明はついているか

Ⅵ 玄関

□ 収納する物品の量をチェックしたか
□ 倉庫に入れるべき物まで玄関に置こうとしていないか

- □ ワンポイントの空間演出はしてあるか
- □ 不自然に無理をして吹抜けを造っていないか
- □ 十分に明るいか
- □ 玄関土間から見上げる位置に階段がついていないか
- □ 鏡はつけたか
- □ 濡れたカサの置き場はあるか

Ⅶ 廊　下

- □ 中廊下的で閉鎖的かつ暗くないか
- □ 通風の妨げになっていないか
- □ 各室のドアが急に廊下側に開かないか
- □ 部屋の一部としてもいい部分を仕切って廊下としていないか

Ⅷ 寝室

- □ プライバシーは十分保たれているか，つづき間を寝室としていないか
- □ 遮音防音は十分か
- □ 遮光したいときに十分に暗くなるか
- □ 見上げる天井はシンプルか
- □ エアコンの風が寝ている人に吹きつけないか
- □ 枕元灯，全体灯は調光できるか
- □ 衣服の収納量をチェックしたか
- □ 書斎コーナーに置く本の大きさと量を調べたか
- □ 鏡台を置くスペースをとったか
- □ 身のまわりの小物入れのスペースを設けたか
- □ 床仕上げは足音がたたないか

Ⅸ 子供室

- □ 寝室の項のチェック事項は満しているか
- □ 将来の分割を考慮してあるか（ドア位置・窓位置）
- □ 必要以上に広過ぎないか
- □ ベッドと机などを図上で配置してみたか

- ☐ 四帖半や六帖の大きさにこだわっていないか
- ☐ 机への採光のための窓位置はよいか
- ☐ 変形な部屋の形をしていないか

⒳ 水まわり

- ☐ 浴槽にはゆったりとつかれるか（単に衛生を目的とするかどうか）
- ☐ 湯沸し方式と生活スタイルは適合しているか
- ☐ 便所内にコンセントを設けたか
- ☐ 便所専用の掃除具の収納場所を設けたか
- ☐ 便所ドアが内開きになっていないか
- ☐ 浴室使用中に便所が利用できるか
- ☐ 換気扇は設けたか
- ☐ 暖房設備を考慮したか
- ☐ 手すりを設けたか

⒳Ⅰ アプローチ

- ☐ アプローチの演出性はよいか
- ☐ 玄関ポーチが全体と比較して飾り過ぎていないか
- ☐ 車を置いても歩くのに通路幅は十分か

おわりに

細部について述べだすときりがありません．各室のつながりについてのみ述べても一冊以上になってしまいます．住宅の平面図についてのみを多年にわたり研究している大学教授もいます．「住宅」という課題はとてつもない深さと広がりをもっているのです．

書斎についてのみ記述している本が幾冊か出版されています．システムキッチンメーカーの出している美しいカタログには，バリエーションの豊さかと，その性能のよさを解説し，厨房設計から家事空間にわたってメーカーの主張を掲載しています．しかし住宅はあくまで全体のバランスで成り立っているものであり，書斎やシステムキッチンを自慢するためのものではありません．また書店には各室各部の設計の工夫・アイデアを数多く盛り込んだワンポイントアドバイス集的な本も多く置かれています．納得できる提案もありますが，あくまでアイディアでマユツバものもあります．そうした中の納得できるアイディアだけを積み重ねていったならば立派なバランスのよい一軒の家が出来上るのでしょうか？

土地付き建売住宅の規模が土地100m²以下，建物延面積100m²以下の物件が多いことから察しますと，本書で例とした土地約225m²，建物120m²は恵まれているものといえるかもしれません．本書の例を100m²の面積の敷地に適応するにはそのままでは多少の無理があります．しかしその基本は生かされるはずです．生かされなければ，なんとなく満足できない住宅となることに疑いありません．

図面を見ることを学んで欲しいと思います．図面の中に入りこみ，図面の中の家をていねいに歩きまわり，一場面ずつがどう見えるかを想像し，その中で起るさまざまな出会いをイメージしていただきたいのです．本をさかさにしたり，横にしたりして図面を見ると思わぬ発見があることも多いでしょう．

✕の例は公の機関が関係し，広く一般大衆向けにモデルプランとして公表し，現実に建設され，住まわれている住宅です．おそらく住人は「住いとはこんなもの」と多少の不便にはそれなりの策を講じて暮しているものと思われます．✕の例が何が何でもよくないというわけではなく，そうなった特殊な条件や，施主の要求もあると考えられます．しかし一般的には避けた方がよいわけで，「細々な点」として見過ごしてはならないものです．そしてこのような「避けた方がよい」ことが，書店に並んでいる一般雑誌の中に紹介されている美しい住宅の中にはいかに数多くあることでしょうか．
これらは基本的な事柄であって，それをないがしろに一部分のみを美しく設計したり，形に凝ったりすることは論外です．

多くの「住宅の本」で扱っていて，本書に抜けているものに「住宅金融」に関する項目があります．住宅資金をどうするか，金利は，税金は，といった項目のことです．これらは家そのものをどうよくするかとは全く別の次元のことです．建築家から話を聞くよりも，銀行に行けば事細かに相談にのってもらえますし，無料のパンフレットも用意されています．多くの読者の関心事ではありましょうが，政策や金利はしじゅう変化するものであり，この問題の扱いは単行本よりも雑誌の方が向いているのです．

住宅建築研究会は一般に設計事務所と呼ばれる会社に勤める人，都市計画事務所で都市環境をコントロールするための仕事をしている人，インテリアデザインに係っている人，プレハブ住宅メーカーで設計施工の仕事をしている人，学校で建築教育に携わっている人などがそれぞれの立場から，あるいは立場を越えて「住宅」について討議・研究している会です．

本書はこれまでの議論をこの時点で集大成しようと試み，筆者が時間を見ては少しずつ絵を描き，少しずつ文章をつけました．企画をしてからだいぶ時間がたってしまいました．会の人々には時にふれたアドバイスをいただきました．特に石毛誠氏（東京建築専門学校）には本書の全般にわたって，御指導をいただきました．

例とした９つの設計例ともつき合いがだいぶ長くなり，それぞれに愛着がわいてきました．このあたりで多くの読者の方々の眼前に提示して御意見を伺うことにしたいと思います．

1987年２月14日

住宅建築研究会　新田広史

●索引　★50音順にならべてあります．数字は表出のページを表わします．

〈あ行〉

アプローチ……103, 118, 134
網入りガラス……57
居間……75, 92, 131
依頼主……17
衛生・水まわり……115
押入れ……65, 68, 125

〈か行〉

外部空間……118
学習室……123
貸付対象住宅……15
家事……81
家事室……85
家事スペース……48, 86
家族構成……25
家族の暮らし方……21
家庭……21
換気設備……61
環境……32
汽車式洋式便器……117
規格型住宅……31
給排水ガス設備……60
空調換気……59
傾斜地……34
下足入れ……104
建築家……19
建築基準法……32
建築面積……31
建ぺい率……31
玄関……85, 88, 103
公室……129
構造……54
構造計画……56
構造材料……17
行動……28
工法体系……16
工務店……17
腰掛け式便所……30
個室……21, 90, 113
子供室……88, 112, 133
コミュニケーション……21, 131
コンクリートブロック……33
混合構造……57

〈さ行〉

採光……31, 52
在来軸組み工法……54
作業カウンター……98
3DK……23
シェルター……15
敷地……34
敷地特性……31
私室……129
システムキッチン……63, 72
施設……28
斜面……34
シャワートイレ……60
習慣……26
シュート……102
住宅供給……14
住宅金融公庫……31
住宅設計……21

食堂……70, 75
所形態有……33
寝室……23, 108, 133
新築……21
深夜電力湯水器……61
炊事……81
筋かい……54
住い……22
住宅宅地審議会……15
図面……19
生活スタイル……21
生活時間……26
施工業者……17
設計監理者……57
設計者……21
設計事務所……17
設計料……17
設備……54, 59, 130
洗濯……81
セントラルクリーナー……63
セントラル暖房……60
前面道路……31
専用コンセント……59
総合住宅建設業……14
増改築予定位置……25
増築……25
ソファセット……92, 95
ソーラーシステム……60

〈た行〉

耐火構造……56
対話のコーナー……109
だんらん……26
チェックポイント……22
茶の間……26
駐車場……31
駐車スペース……119
厨房……70, 97, 132
厨房設備……63, 67
厨房機器配置……97
注文住宅……65
調光……59, 110
貯湯タンク……60
通路……130
ツーバイフォー……54
坪当り単価……17
DK型……71
手すり……117
鉄筋コンクリート……55, 56
鉄骨造……55
鉄骨ラーメン構造……55
電気設備……59
電灯スイッチ……59
トイレ……115
図書館……29

〈な行〉

内部間仕切……25
西日除け……38
熱交換型……62

〈は行〉

配管方法……17
パネル……54

バルコニー……60
日当り……40
ヒートポンプエアコン……61, 102
吹抜け……105
フスマ……23
不動産価値……33
プライバシー……23
プラン……35
ブレース……55
プレハブ住宅……31
風呂……116
フロアー……42
分譲地……34
勉強室……123
法規……31
法的規制……31
骨組……25
ホテル……28
ホームセキュリティー……59

〈ま行〉

街並み……32
マニュアル……17
見積り……19
水まわり……134
木造……54
木造建築物……32
物入れ……125

〈ら行〉

リビング……96
廊下……69, 106, 133
老人室……103
露出配線……59

〈や行〉

屋根勾配……40
床暖房……61
ユーティリティ……81, 100, 132
ゆとり……92
容積率……32
溶接……56
浴室……90, 115, 116
余力……56

〈わ行〉

和室……50
和風……50
和風便器……115
ワンルーム……26, 52
ワンルームハウス……64

●レイアウト
鈴木洋子
●装丁
米村　隆

●ジャケット写真提供
阿部興業株式会社

新技法シリーズ
住いをデザインする
定価 2,200円
発行——1987年5月10日　第1刷

著者——新田広史©(透視図、図面、イラストレーションを含む)
発行者——大下 敦
編集・制作——技法書編集室
印刷——株式会社光邦
製本——株式会社鈴木製本所
発行所——株式会社美術出版社
東京都千代田区神田神保町2-36　稲岡ビル 〒101
TEL 03(234)2151(代)　振替 東京5—166700

Printed in Japan

ISBN4-568-32140-9 C2372 ¥2200E